

今春入隊者が自衛官志望の後輩と懇談

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は9月18日（月）、今年4月に陸上自衛隊に入隊した木村功大2等陸士と、自衛官を目指す後輩との懇談を支援した。

木村2士は現在、朝霞駐屯地（東京都練馬区）において部隊で勤務するために必要な専門的知識・技能を学んでいる。今回、母校である稲取高等学校（賀茂郡東伊豆町）を訪れ、一般曹候補生及び自衛官候補生試験を今年受験する後輩2人と懇談した。

木村2士は後輩に、自衛官として勤務する上で必要な基礎知識や動作を学ぶ前期教育について「自衛官は自分のことは全て自分でやらなければならない。大変なこともあるが、教育隊では必ず仲のいい同期ができるから頑張る」と話し、自らが努力した姿を周りに認められて嬉しかったこと、3カ月の教育期間があつという間に過ぎたことなど、これまでの経緯を熱く語った。

また、同行した広報官が、木村2士はこれから隊員や物品の輸送を担当する「輸送科」で勤務することになり、すでに大型自動車免許を取得したことを話すと、後輩も興味津々な様子で聞き入っていた。

最後に木村2士は「入隊前は不安だったが、入隊後すぐに取り組んだ前期教育はとても楽しく充実していた。自衛官候補生として入隊しても、その後一般曹候補生を受験して合格すれば定年まで働けるので、ぜひチャレンジしてほしい」と後輩に伝えた。

静岡地本は、今後も入隊者の母校訪問を積極的に支援して、自衛隊に対する正しい認識と理解促進に努めていく。



専門学生に自衛隊の車両整備をPR

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、10月14日（日）に専門学校静岡工科自動車大学校及び隣接する静岡県自動車学校静岡校（静岡市）で行われた「静岡カーフェスティバル2018」において広報活動を実施した。

このイベントは同大学の学生が計画し、子供や中・高生を対象に「クルマのさまざまな楽しみ方」を体験することで、自動車業界に興味を持ってもらおうと行われている。会場では、子供向けの整備体験コーナーやクラシックカー展示、自衛隊車両などが見られる特殊車両展示といったさまざまな催しが行われ、約3500人の来場者で賑わった。

静岡地本は自動車学校エリアにおいて、災害派遣などでも活躍する73式小型トラックや、日頃から隊員が使用している迷彩服、半長靴、リュック（背のう）、野外での訓練時に携行する食糧（携行糧食）を展示したほか、北海道や西日本における今年度の災害派遣活動の様子をまとめたパネル展示などを行った。同時に、自衛官採用制度説明コーナーを設置し、自衛官が行う自衛隊車両の整備要領や、車両整備員となった自衛官のキャリアアップなどについて、同校学生の要望に対応した説明を行った。

説明を聞いた学生からは「車両整備員だけでなく、あらゆる角度から自衛隊の話を知ることができて、将来の選択肢が広がった」などとの感想を聞くことができた。

静岡地本は、今後も各種行事に積極的に参加して自衛隊の魅力や多種多様な職種を紹介し、自衛官への理解を深めてもらうとともに、自衛隊での活躍を目指す熱意ある若者が入隊できるよう努めていく。

